

テーマ

業務が混雑すると、 企業のコストはどうなるか?

適用
分野

コスト・マネジメント、
原価計算、業績評価



研究
名称

混雑コストがもたらす経済的帰結

氏名
所属

小笠原亨 准教授
経営学部 経営学科

内容

● 特徴

企業の保有するキャパシティに比べて処理すべき業務量が多いとき、様々な問題が発生します。例えば、①社内ではすべての業務を処理できず外注することで平均費用が上昇する、②従業員の負担が増加することで事故など業務上のリスクが増える、③そもそも注文を受けることができずに機会コストが発生する、などが挙げられます。このように混雑がもたらすコストは多種多様な形で現れます。そのため、業務の混雑によって、どれだけコストが増加したか測定することは難しく、経営者にとって見えづらいコストとなっています。

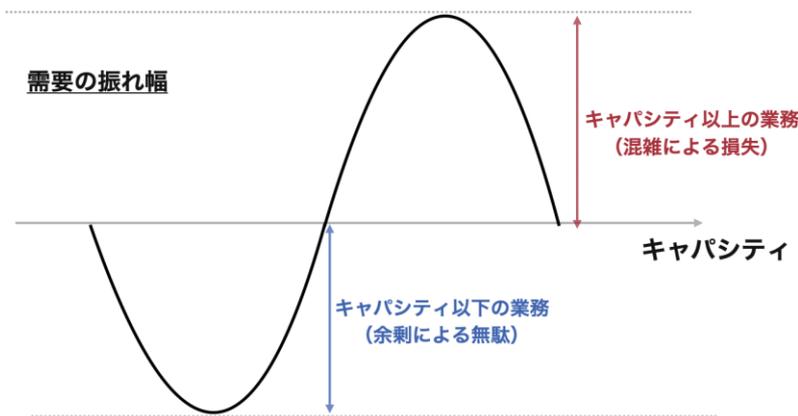
混雑コストを防ぐには、あらかじめキャパシティに余裕を持たせておく必要があります。そのため、混雑コストを懸念する企業では、正社員の雇用や生産設備の増強といった手段でキャパシティを確保します。この結果、こうした企業のコスト構造は固定費割合の高いものとなるわけです。見えづらいはずの混雑コストですが、コスト構造の選択という大きな意思決定とも関わってくる重要な概念です。

● 研究内容

他大学の研究者や企業と協力し、下記のような問題意識をもって研究に取り組んでいます。

- ・混雑コストがもたらす要因はなにか？
- ・混雑コストと最適なコスト構造の関係は？

特に、コスト構造との関係は重要な課題です。下図のように、需要の振れ幅が大きくなるほど、混雑コストも増えますが、余分なキャパシティを保有する無駄も発生します。このように混雑コストを考慮したうえでの、コスト構造の選択を研究しています。



キーワード

コスト・マネジメント、混雑コスト、コスト構造、需要の不確実性、目標設定

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究